

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2023年2月28日

事業所名 えがおの玉手箱

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係が適切である	4		・個別空間がもう1箇所欲しい。 ・今後人数が増えることを考え、活動時の動線に気を付けたい。	パーティションの設置や空間を分けて取り組めるように設備を増設していけるようにします。
	2 職員の配置数は適切である	4			
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	1	・段差があるところ等 職員の介助2人で 行っている。	バリアフリーを行える箇所については今後、設備を配慮できるように工夫をしていきます。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1	・アンケートを用い、よい点(子どもが楽しかった遊び)を取り入れている。	今後も定期的に保護者の方にアンケートを取り保護者の方の意向を取り入れながらプログラムを設定していきたいと思います。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	2	・今年初めての評価の為今後その予定である。	今後、事業所の取り組みについて自己評価を行い支援の質を高めていけるように努めてまいります。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	2		
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4		・研修の回数を増やす必要がある。	今後、月1回以上研修を行い、スタッフの資質を向上できるようにしていきます。
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2			
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	4			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	1		
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	・前日までに行ってほしい。 ・利用者の増員が予想されるのでさらに工夫を図りたい。	職員のシフトを踏まえ打ち合わせを行える機会を増やしていきます。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2	・終了後は振り返りの時間はないため、次の日の朝行っている。	職員間で振り返りを行えるツールを設け日々振り返り替えられる機会を設けていきます。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4			
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	4				

関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	2		
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	2	1	・今は医療ケア児はいない。 ・看護師が在申している	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	1	2		
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		3	・今はその年齢の子がいない。 ・事例がない。	今後、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等への移行をする場合の引継ぎについて事例が発生した場合、適切に対応できるようなツールの作成を行ってまいります。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3		・紙芝居イベント等を通して他の子どもたちと交流している。	今後も継続して地域の児童との関わりを持つプログラムを進めていけるようにします。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4			
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	2	1	・ペアトレーニングまでは行っていない。 ・わからない。	送迎時に利用日の様子だけではなく具体的な支援方法についてより共有できるようにしていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4		・訪問・電話等により対応している。	今後も、保護者からのご相談があった場合、電話や訪問等で対応できるようにしていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	・父母会は開催していない。	感染症対策を優先とし、今後保護者会等を設けられるようにしていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	3			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			
	35	個人情報に十分注意している	4			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		・ソーシャルツールを使用しており、リアルタイムで伝達している。	今後もソーシャルツールを使用して、リアルタイムで情報を発信していけるようにします。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4			

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	・感染症時の受け入れ等、臨機応変だがきちんと方針を決めて統一できているかわからない。	マニュアルの内容を推敲し、方針をより細かく設定できるようにしていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	1	・避難訓練や体験場所に行っている。	今後も定期的に災害対策に向けて訓練をしていけるようにしていきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	1	・身体拘束について話は出たが保護者への説明、了承、記載ができていない。	身体拘束については契約の際、契約書に記載を行い保護者の方へ説明は行っており、継続的に身体拘束をする必要がある際には身体拘束に対する同意書を取り交わすことになっています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	2	・指示が必要な子が今はいない。 ・保護者からのヒアリングのみである。	アレルギーがあった場合、医師の指示書を拝借できるように依頼していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	1	・ヒヤリハットをもう少し活用し共有していく必要がある。	ヒヤリハットについて、月に1回以上検討し対策を行えるようにしていきます。